

「新しい資本主義」

11月18日、大手町の日経ホールで、日本経済新聞社主催の日経シンポジウム「企業家精神と資本主義の行方」が開かれ、運良く抽選で当たったので参加させて貰った。勝手に私淑している田坂広志さんの「グローバル経済と企業家の覚悟」というテーマの特別講演があったからである。講演内容は昨年7月に出版され、このコラムの第11回で紹介させて頂いた氏の著書『目に見えない資本主義』の内容を骨子とするものだが、「日本型経営が復活し、日本という国が21世紀 世界をリードする」という強いメッセージを発するものだった。今年、隣国中国にGDPで抜かれ、尖閣、北方領土問題で右往左往しているかのように見えるこの日本が、リーマンショック後の危機に瀕したままのこの資本主義社会の「新しい道」を指し示すというのだから、多くの人には納得がいかないかも知れない。しかし「5つのパラダ

イム転換」で語られるように価値の基準が変わり、思考の枠組みが変わり、評価の基準が変われば、実は別の世界が見えて来る。以前から田坂氏が主張していた事ではあるが、今回改めて私に「気づき」をもたらしてくれたことがある。それは「目に見えない資本」という概念である。「目に見えない」という言葉については、オリジンでも20周年の「未来への志」の中で「目に見える報酬のみならず、目に見えない報酬を社員の手に与えられる会社になりたい」という形で使っているが、会社のそのものの価値観や評価の中でも「目に見えない資本」という観点が必要だと強く感ずる。というのはオリジンのある社員、こんな質問があったからである。

「懸命に忙しく働いているのに儲からない…」

最近のオリジンのある会議の席上、中堅の社員の頃からこんな疑問がぶつけられた。そして「これでは士

清野吉光氏のコラム 第26回

団塊 耕 志 録



清野 吉光(きよの よしみつ) 略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年㈱タクシーサイト創立、現取締役会長。2007年タクシーアシスト代表取締役社長に新任。現在に至る。

「一企業家の覚悟」

気が下がる、会社からの説明をして貰えたら…」と控えめに要望があった。実は私自身30年も前の職場で、同じような疑問を感じたことがあった。当時自分の部署は目一杯働いて、それなりの成果があったのに会社は赤字だった。で、この会社大丈夫かと疑問を感じたものである。故にこの疑問については、しっかりと応えねばならないと感じた。オリジンでは社内システムのO.T.A.S(オリジン総合支援システム)で毎月の売り上げ、粗利、総経費、利益がすべての社員が見れるように公開されており、おまけに来年3月の決算見通しまでリアルタイムで表示されるようになっていた。今期の今現在のこの非常な忙しさと期末の収益予想数字にギャップを感じてしまっているのは、ある意味仕方が無いことなのかも知れない。しかし、私自身は実はあまり悲観してない。まず今期のこのギャップは今期が直接の原因ではなく、過去数期に渡る、新規開発の工数やら何やらがしわ寄せされ

ていることである。詳しくは税務署も読んでいることなので(読んでないか?!)書けないが、実はこの忙しさと実際の数字にはさほど大きな乖離は無い。

そしてそれよりも重要な点は「会社の儲け」とは何かという事である。財務諸表で表示されるのは基本的に目に見える世界であり、「儲かった」という場合、基本的に粗利=経費||利益という事しか問題にされない。しかし我々が会社を評価する場合、お金の面だけを見るだろうか?(もちろんお金は非常に大事な要素ではあるが)いやむしろこれからは(お金の増殖を自己目的化した詐欺的サブプライムリーマンショックを経て)目に見えない資本を重視し、それが力を持つ時代だと多くの人が直感的に感じている時代になって来ている。

実はいま資本主義は「目に見えない資本」を蓄積する会社こそが圧倒的な競争力を持ち、活躍する時代へと向かっていく。

「目に見えない資本」とは？

田坂氏によると「目に見えない資本」とは知識資本であり、それは従来考えられているような技術や特許などにとどまらず、知識資本↓関係資本↓信頼資本↓評判資本↓文化資本と「形態」を変えながら「広義の知識資本」となっていく。こうした〇〇資本という言葉自体は我々になじみはないが、経営、営業、製作、サポートの現場ではこうした事の意味が直感的に理解できる筈である。良い人間関係があれば、それは力になる、会社が市場と顧客から信頼があれば、それはおおきな「もとで」だ。会社が世間で評判が良ければ営

ソフィアバンク代表



田坂広志
Hiroshi Tasaka
シンクタンク・ソフィアバンク 代表
社会起業家フォーラム 代表
多摩大学大学院 教授



田坂 広志著
ISBN4-449-29518-0 03044
サイズ:四六判 装幀:232頁
発行日:2009年7月29日
価格:¥1,980(税込)
Summary
「これから資本主義はどこへ向かうのか?」今、誰もが知らないテーマで、読者の著者が独自のアプローチで文字通り考え、日本型へ進化する資本主義の未来が見えてくる本です。

業はしやすい。そしてそうした「目に見えない資本」を育てて行くのは、会社を、とりわけ自分の勤める会社を評価する場合、是非、「目に見えない資本」だけでなく、この「目に見えない資本」という観点からも見つめて欲しい。オリジンは30年近くもたつ会社なのに、未だたいした利益もあげられず、毎年、なんとか赤字にするのに汲汲としている(もちろん威張って言うことではない)。しかし一方、5人のド素人に近い集団が独学でソフトを勉強する事から始め、紆余曲折の中でタクシー業界に役に立つソフトと24時間のアフターの体制、そして今となっては当たり前の電話回線による全国サポート体制の確立を目指してきた。またタクシーサイトやタクシーアシスト、経営サポート事業部などは、それ自体は数字的な収益を第一に目指したのではなく、こうしたオリジングループの「目に見えない資本」を蓄積するものとして挑

戦し、一定の結果をだせたと思う。

むしろ、我々が真剣に考える必要はないことは、我々の一挙手一投足が、実はこの「目に見えない資本」を傷つけていないかという緊張感を持った検証である。受注があり、打ち合わせがあり、納品があり、サポートがあれば、とりあえず売り上げと収益が生まれる。しかしその全プロセスの中で、実は「目に見えない資本」↓関係、信頼、評判、文化を毀損していないか、そしてその全プロセスの中で、社内の「目に見えない価値」↓「社員の目の輝き、働き甲斐、職場の空気、社員の和、企業の文化、顧客との共感、社会からの信頼、世間の評判」を失っていないかを恐れないでほしいと思う。

社員の人の意識がともすれば「目に見える報酬」や「目に見える価値」そして「目に見える資本」に行ってしまうのはある意味で止むを得ない事である。「目に見えない価値」に共感し、共に「目に見えない資本」作りを励んでもらうためには、あ

げて経営陣の意識と覚悟が問われる。そして日本の経営とはまさに経営陣が、そのような経営思想と覚悟を持ってやってきたのではないか。松下幸之助の言葉に「企業は、本業を通じて社会に貢献する。利益とは社会に貢献したことの証である。企業が多くの利益を得たということは、その利益を使ってさらなる社会貢献をせよ、との世の声である」とある。

オリジンの利益が少ないのは社会への貢献度が足りないという事であり、「目に見えない資本」をまだまだ首尾よく蓄積できていないという事であり、お客様のニーズにまだまだ本当に答えきれていないという事である。激変するだろうタクシー産業の中で、我々の果たすべき役割は必ず存在するし、オリジンの社員にとっても経営陣にとっても、それは「目に見えない価値」につながる、遣り甲斐と生き甲斐に繋がる事業となることを信じて「一企業家の覚悟」としたい。
(2010年11月23日記)

プリンター一体型業務用アルコール測定器

ALC-miniⅢ

¥83,000より

アルコールだけに反応 音声ガイドで簡単操作

コンパクトなボディにプリンタ機能搭載!
吹き込む・測定する・記録する、の
カンタン3ステップアルコール測定!

※表示金額には消費税、保守料等は含まれておりません。

お申し込み お問い合わせ 株式会社 システムオリジン Tel.03-3834-8352

関東支店営業本部 〒101-0021 東京都千代田区外神田 5-3-4 田中ビル 7F 拠点/北海道・東北・関東・甲信越・東海・名古屋・関西・中国・九州



息を吹いて下さい。

2011～2012年にかけて、全ての事業者はアルコール測定器の使用が義務付けられます。(事業用自動車総合安全プラン 2009)

義務化に向けて 備えの1台です!

製造元 TD 東海電子株式会社 http://www.tokai-denshi.co.jp